

### 『グッド・ウィル・ハンティング 旅立ち』

1997年／アメリカ／ガス・ヴァン・サント監督作品

#### 真の愛情や友情に感動するヒューマン映画

会員 安部 康広 (61期)

#### 1 あらすじ

マサチューセッツ工科大学数学科教授のジェラルド・ランボー（ステラン・スカルスガルド）は、解いた人間が数少ない難問を数学科の学生たちに出します。解くことのできる学生が誰ひとりいなかったその問題を解いたのは、大学でアルバイト清掃員として働く孤児の青年ウィル・ハンティング（マット・デイモン）でした。

彼の才能に目をつけ開花させようとするジェラルドは、素行の悪さから鑑別所に入っていたウィルに、出所の条件として、自分の元で数学を学ぶことと、カウンセリングを受けることを条件に身元を引き受けさせます。

ウィルの更生を依頼された心理学者が次々とサジを投げるなか、最後の砦としてジェラルドが声をかけたのは、かつての同級生で心理学者として教鞭を振るうショーン・マグワイア（ロビン・ウィリアムズ）です。事情を知らないウィルは当初ショーンをからかっていましたが、やがて互いに深い心の傷を負っていることを知り、次第に打ち解けていき、トラウマを乗り越え、愛や友情、信頼を知り、大人へ旅立つ話になります。

#### 2 感動する多くの名言！

ウィルは、天才的な頭脳を持っているけど幼いころのトラウマが原因で人とうまく付き合えず、日々を無為に過ごしています。そんな状況の中で、周りの人達は、ウィルの非凡な才能に嫉妬しながらも、助け船を出して行きます。そんな、周りの人達と

ウィルとの関わり合いの中で、多くの名言が登場します。このような名言が語られることによって、周りの人達が正面からウィルに向き合っていることが感じられます。

私が特に気に入っているのは、悪友であるチャッキー・サリヴァン（ベン・アフレック）との工事現場の休憩中のシーンです。

チャッキーは、毎日ウィルを車で迎えに行き、酒を飲んで何かばかをするのも楽しいと言います。それに続けて、チャッキーは、何より楽しみなのは、朝ウィルの家に行ったらウィルがいなくなっていることを想像する瞬間だと言い放ちます。

ウィルは、チャッキーのことをただばかができる友達とだけしか思っていなかったのに、実はすごく自分のことを考えてくれていた友達だと知ることになります。ウィルは、この期に及んでまだ自分のことしか考えていないと気づき、自分は自分以上のことを考えられない人間と痛感します。そして、ウィルのために、ショーンとランボーが言い合うのを目撃し、感動のラストにつながっていきます。

#### 3 改めてこの映画を観て

弁護士という業務は、何かしらの悩みを抱える人達の人生の一部を取り扱う仕事であると思います。依頼者は、時にはその悩みに押しつぶされそうになり、どうしたらいいか分からなくなっていることと思います。改めてこの映画を観て、そのような人達の光明になろうと感じました。